

第6回 弊社社員の出身地別 各地のソウルフード紹介

ここでは、「ソウルフード」を地域特有の料理もしくは、その地域で親しまれている郷土料理ということで、

ドボク管理社員の出身地をもとに調べ紹介しています。

第6回目は、函館市の「やきとり弁当」を紹介します。

弊社札幌支店に出身者が二名おります。

ハセガワストア やきとり弁当

手づくりで美味しい
やきとり弁当！



函館市

函館名物やきとり弁当の“ハセスト”こと ハセガワストア

ハセガワストアは、北海道函館市を中心に展開しているコンビニエンスストアです。根室市には、チェーン店である「タイエー」も展開しています。

看板商品であるやきとり弁当は、1978年9月に発売して以来、現在も当時のままの変わらぬ味で続いているそうです。やきとり弁当は、お客さんの『お弁当ない?』という声がかきかけで、おにぎり用ののりとご飯と、店内で焼いていたやきとりを、とっさに組み合わせて作ったのが始まりです。

ハセガワストアのWEBサイト
<http://www.hasesuto.co.jp/index.html>

株式会社 ハセガワストア

〒041-0853
函館市中道2丁目14番16号
電話：0138-54-5731 FAX：0138-54-0327
函館地区に13店舗
その内5店舗が24時間営業



ハセガワストアの
WEBサイト

焼鳥なのに「豚」?! 名物やきとり弁当

ハセガワストアのやきとりは、鶏肉ではありません。函館周辺や室蘭で「やきとり」と言えば、豚肉こそが「やきとり」なのです。やきとり弁当の注文は、専用の注文書に記入してオーダーします。焼き場付近に注文書を書く台があり、そこにこのような注文方法の説明書きがあります。やきとり弁当だけでもいろんな種類・サイズ・味があり、やきとり単品の購入も可能です。豚を中心に牛肉、鶏肉、野菜の串があるので、お好みでどうぞ。



やっとな食べた「やきとり弁当」

「ハセストのやき弁」と言えば、ハセガワストアのやきとり弁当のことを指します。それが函館市民の共通認識であり、地元の子供でも知っています。これまで、なかなか食べることができなかったやき弁ですが、今回は出張で行ったこの機会に必ず買いに行こうと決めてました。

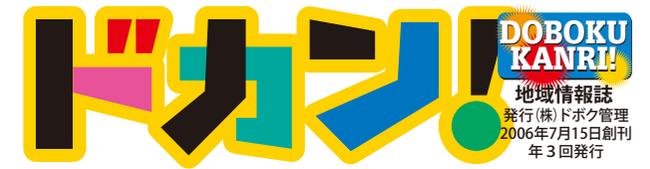


建設コンサルタント業・測量業・補償コンサルタント業
ISO 9001：2015認証登録



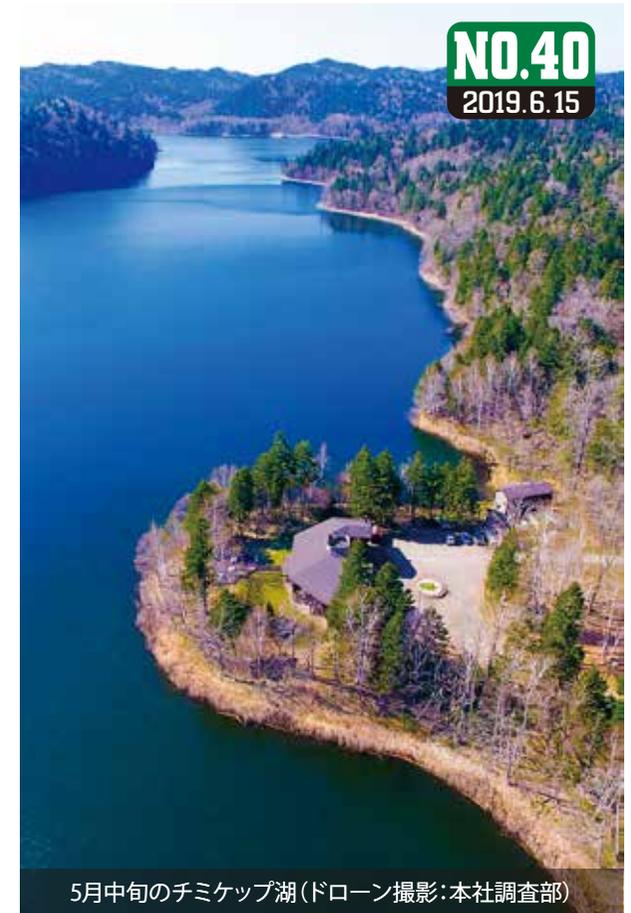
株式会社ドボク管理

本社 ●〒090-0801 北見市春光町1丁目24番地3 TEL.0157-26-3321 FAX.0157-22-7508
札幌支店 ●〒001-0011 札幌市北区北11条西2丁目2番17号 TEL.011-708-0708 FAX.011-708-7700
旭川支店 ●〒070-0831 旭川市旭町1条13丁目688番144 TEL.0166-54-7270 FAX.0166-51-1363
網走出張所 ●〒093-0076 網走市北6条西3丁目3番地 TEL.0152-43-4150 FAX.0152-43-4160



<http://www.dobokukanri.co.jp/>

NO.40
2019.6.15



5月中旬のチミケップ湖(ドローン撮影:本社調査部)

ドボク管理 新体制の紹介

特集 北見市周辺の秘境
チミケップ湖 津別町

株式会社ドボク管理

チミケツ湖は、北海道東部、網走管内網走郡津別町字沼沢にある湖である。「チミケツ」とはアイヌ語で「崖を破って水が流れる所」という意味。約一万年前に地殻変動による崖崩れで谷がせき止められてできたと考えられている堰止湖。湖水は弱アルカリ性で、ヒメマスやウグイ、マリモ等が生息している。湖周辺は自然歩道が整備されており、湖北東岸には町営キャンプ場、東岸には湖周辺唯一の宿泊施設であるチミケツホテルがある。南岸の端から二百メートル下流のチミケツ川には七段の岩床の上を流れ落ちる「鹿鳴(ろくめい)の滝」がある。(ウィキペディアより)

春の訪れ

奥深く春の遅いチミケツ湖は、5月下旬あたりから、周辺の湿地や溪流沿いはクリンソウのピンクの花が満開になります。クリンソウは大型のサクラソウ科の植物で、付近の湿潤なところにはとても多い春の花です。環境が湿潤でなくなる時期になるとやがて消えてしまいます。津別町では町の花に指定して、毎年「クリンソウ祭り」などのイベントを催しています。



春のチミケツ湖

冬期間、厚い氷に閉ざされていたチミケツ湖も、4月末から5月にかけてその氷も溶け、湖面が久しぶりに姿を現します。



クリンソウ

湖の面積：約 105km²
 周囲：約 10km
 深さ：平均 12.2m
 水面の標高：290m

至 訓子府町日の出



西湖畔コース

長期間閉鎖されていた西湖畔コースの整備が終わり、2019年5月から再び散策することができるようになりました。



対岸からホテル方向

夏の湖畔

湖畔には野鳥公園や樹木園、見晴台が整備されているほかはほとんど観光化されていないチミケツ湖です。湖には天然のヒメマスやウグイが生息し、天然記念物のクマガラをはじめ、40種類あまりの野鳥が生息する深い森に囲まれ、秘境と呼ぶにふさわしい静かな穴場です。夏は、釣りや、ホテルのレンタルカヌーでも楽しめます。



キャンプ場の朝

台風の影響で倒木などにより閉鎖されていた4つの散策コースの整備が終わり、今シーズンからすべて通行可能になりました。湖畔のキャンプ場は静かな環境で最小限の設備ながら、なかなか人があります。



散策コースの道標



夏のチミケツ湖

エゾマツやトドマツなどの原生林に囲まれたチミケツ湖は、手付かずの自然が残る小さな湖です。幹線道路から離れた山奥にあり、周囲に人工的な建物がほとんどありません。原始の森が広がる動植物の楽園です。

秘境チミケツ湖の四季

網走郡津別町字沼沢

紙面で紹介できなかった写真などは弊社サイトで公開しています。
http://www.dobokukanri.co.jp/dokan_pdf/chimiketsu/



秋の湖畔キャンプ場



ホテル裏庭



湖畔のカヌー

秋の佇まいの湖畔は紅葉と落ち葉の中にあります。差し込む日差しは暖かく、冬がやってくる前の穏やかなひとときです。

シーズンを終えたカヌーは、岸にあげられ、次の季節に備えます。チミケツ湖はここから長い冬を迎える準備に入ります。

道道682号

チミケツ
 キャンプ場

野鳥コース
 約 1,000m



写真集はWEBで!

弊社のサイトで公開しています。
http://www.dobokukanri.co.jp/dokan_pdf/chimiketsu/

見晴台コース
 約 1,200m

見晴台

樹木園コース
 約 1,100m

チミケツ
 ホテル

わかさぎ
 釣りの
 スポット



鹿鳴の滝

編集後記

スマホも携帯も圏外の「秘境チミケツ湖」。たくさんの人に訪れて欲しいような欲しくないような、そんな気がする原始豊かな場所です。写真は、時には熊鈴をつけて社員4人が2年かけて撮影しました。状景が伝われば幸いです。(豊原 元)

秋の紅葉

深い森に取り囲まれたチミケツの秋は、より一層静かな雰囲気が漂い、秘境ムード満点なものがあります。ここには、手付かずの自然がたくさん残っています。湖の外周はおよそ10km。秋の紅葉シーズンには、赤や黄に染まった湖畔の木々が、静かに佇む湖面に映り込み美しい景観を作り出してくれます。幹線道路から離れた奥地にあるため、周囲には人工的な建物はほとんどありません。落ち着いて紅葉を楽しみたい人には、オススメの場所です。



秋の湖畔キャンプ場

湖畔にあり木立も多く、大自然の雰囲気は抜群。本格派キャンプバーにも人気の施設です。設備が最小限のものかえってのんびり過ごすにはうってつけ。オートキャンプは不可。



10月のチミケツ湖

チミケツ湖は阿寒湖と共に天然ヒメマスの原産地です。この二つの湖のヒメマスが、道内の支笏湖や秋田県の十和田湖などに放流されており、それぞれ自生しています。湖周辺は自然歩道が整備されていて、カメラを携えて散策するにはちょうど良いかもしれません。湖北東岸には町営キャンプ場、東岸にはチミケツホテルがあります。

冬の楽しみ

厳冬の1月中旬から2月下旬、チミケツ湖はワカサギの氷上釣りポイントとして真冬でも楽しめます。周辺に、観光地として有名な阿寒湖、屈斜路湖があること、チミケツ湖にアクセスする際、幹線道路が近くにならないことで交通の便が悪いため、隠れた穴場となっています。水質的には、栄養価がいいとは言えませんが、環境に適合するワカサギが生息できる湖となっています。



氷に閉ざされた冬のチミケツ湖

雪の積もった冬のチミケツ湖は訪れる人も少なく、一層の静寂に包まれます。道路の除雪はわかさぎ釣りのスポットあたりまでは行われていないため、クルマの通行も可能です。



5月10日~11月30日まで
 北見~津別間通り抜け可能

至 津別町本岐



氷上ワカサギ釣り